

## 学校評価書

学校名 (八代市立東陽中学校)

## 1 自己評価結果について (項目を立てて記入してください。)

確かな学力の育成	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべての生徒が主体的な学び手となる授業づくり (学習リーダーの活用・定着確認の徹底) に取り組む。</li> <li>毎日の家庭学習を自ら計画を立てて、決まった時刻 (あるいは一定の時間) に学習する学習習慣の形成に、家庭と連携を図りながら取り組む。</li> </ul>
	成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校は、子どもの確かな学力の向上に努めていると思う。学校関係者→3.93</li> <li>○「分かった」「できた」という実感や達成感が生まれる授業を目指して指導を行っている。(定着確認の徹底) 教職員→3.60</li> <li>・「授業改善ステップワン」に基づき、授業改善を推進した。学校評価項目のうち、教師による「個に応じた指導 (定着確認の徹底)」の自己評価は、上期の 3.17 から下期は 3.60 (4.0 満点) へと向上した。一方、生徒の「主体的に課題解決に取り組む姿勢」についても、上期の 3.00 から下期は 3.19 へと微増しており、教師・生徒双方の意識に改善の傾向が見られた。</li> <li>・義務教育 9 年間を見通し、子どもの「育ち」と「学び」を連動させた教育を展開している。小規模校の特性を最大限に活用した「授業改善」および「学習習慣の形成」への取り組みは、東陽小中学校において一定の成果を収めた。</li> </ul>
	課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲授業の内容はよくわかっていと思う。生徒→2.96</li> <li>▲子どもは、授業が楽しく、分かると思っていると思う。保護者→2.69</li> <li>・教職員が捉える授業改善や学力向上と、生徒・保護者が求める授業像・学力像との間に乖離が生じている。同時に、教職員の実践感覚が実際の学力向上に必ずしも直結していないという課題も明らかになった。今後の校内研修では、学習者の視点に立ち、生徒一人ひとりに「なぜ」「やってみよう」「なるほど」という実感が生まれる導入や展開の工夫について、さらなる実践的研究を推進する。また学習リーダーを中心とした授業スタイルの活用に加え「SWPBS (学校全体でのポジティブな行動支援)」の取り組みを全校で共通実践し、学びの基盤づくりに努める。</li> </ul>
豊かな心の育成	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の人権意識の高揚、道徳心の涵養に学校総体として重点的に取り組む。</li> <li>生徒の主体性を大切に特別活動の充実およびボランティア活動の推進により、生徒一人一人の自己肯定感を育み、進んで社会に貢献する生徒の育成に取り組む。</li> </ul>
	成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○あなたは、地域貢献につながる活動を主体的に行っていると思う。(小中合同運動会、伝統文化学習、ボランティアガイド、募金活動等) 生徒→3.67 保護者→3.50 学校関係者→3.93 教職員→3.91</li> <li>○地域人材を授業等で積極的に活用し、地域とともにある学校づくりが進んでいる。教職員→3.91</li> <li>○あなたは、伝統文化学習や様々な体験学習 (農業体験、福祉体験、職場体験、高校説明会等) が自分の学びや成長につながっていると思う。生徒→3.69</li> <li>・学校教育目標「自律・協働・貢献」のスローガンのもと、生徒の主体性を重視した特別活動を推進することができた。小中合同運動会や文化祭などの学校行事をはじめ、日常の生徒会活動においても、自主的かつ意欲的なリーダーが育ってきている。</li> <li>・伝統文化学習やしょうが祭、職場体験、授業サポーター等の実施を通じ、地域連携による豊かな体験活動を実現した。「日本遺産中学生ボランティアガイド」では、講師招へいや現地研修を新たに取り入れ、質の高い学びを継続している。今後もまちづくり協議会を中心とした五者連携を軸に、社会貢献意識の高い生徒の育成を推進していく。</li> <li>・「自分の人権を守り、他者の人権を守るための実践行動」ができる生徒の育成を目指し、校内人権集会を計 3 回実施した。生徒が人権問題を「自分事」として捉えられるよう、第 2 次熊本県人権教育・啓発基本計画 (改定版) に記載された県民意識調査の結果等を活用。社会の差別問題を客観的に捉えることで、身近な問題との関わりに気づき、自らの課題として深く考察できた。</li> </ul>
	課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲あなたは、読書が好きですか。生徒→2.29</li> <li>▲子どもは、読書の習慣が身につけていると思う。保護者→2.19</li> <li>▲感性を磨き、想像力を豊かにする読書活動が推進できている。教職員→3.09</li> <li>・現状と課題として、読書習慣の定着・向上を目指し、担当教諭、支援員、図書委員会の三者が連携して取り組んでいる。しかし、来室数および貸出冊数は伸び悩んでおり、利用の低迷が喫緊の課題となっている。そのため、生徒が日常的に本と触れ合える環境づくりを目指し、以下の施策を推進していく。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①環境整備→図書室のレイアウトを工夫し、居心地の良い空間をつくる。</li> <li>②蔵書の充実→話題作や新刊本を積極的に配架し、生徒の興味を喚起する。</li> <li>③企画の実施→クイズ企画、生徒参加型の選書、移動図書などを通じ、図書室の外へも読書機会を広げる。</li> </ul> </li> <li>以上の目標を掲げ、読書を愛好する生徒を増やしていきたい。</li> </ul>

健やかな体の育成	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>東陽小学校と合同で作成した「育ちの架け橋」をもとに、「めざす15歳像」に向けた取組を計画的に実施し、家庭と連携した基本的な生活習慣、学習習慣の定着に取り組む。</li> <li>支援が必要な家庭については、関係機関等と早めに連携し、切れ目なく支援ができる体制づくりに取り組む。</li> </ul>
	成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健体育における基礎トレーニングや、夏休みから期間限定で全校陸上を行うことで、体力向上および基本的な生活習慣の定着を図った。また、駅伝競走大会に向けた選手の走力アップや、全校で応援する機会を通して、スポーツを愛する心情が養われており、生涯を通してスポーツに親しむ心を育んできた。</li> <li>検診等で未受診者への個別指導やブラッシング指導、また、保健日より・いきいきウィークなどの通信を活用した啓発を行ってきた。</li> </ul>
	課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲学校は、体力向上と生涯を見通した運動（スポーツ）支援を行っていると思う。保護者→2.69</li> <li>▲学校は、体力を向上させ、生涯を見通した運動やスポーツの指導を行っていると思う。学校関係者→3.57</li> <li>▲子どもは、携帯電話やスマートフォン、ゲームなどを、使用時間やマナーを守って使うことができていると思う。保護者→2.14</li> <li>体力向上に関しては、部活動加入率の低下や拠点校部活動への移行に伴い、生徒の体力低下が懸念されている。こうした背景から、体育授業が果たす役割はますます大きくなっている。現状、駅伝競走大会への出場やチーム編成すら困難な状況にあるが、まずは授業を通して、生涯にわたってスポーツに親しむ資質や能力を育む授業展開を目指していきたい。</li> <li>視力低下（67.7%）が顕著であり、重点的な保健指導が必要な状況にある。生活習慣確立のため「メディアコントロールデー+三点固定運動」を推進しているが、i-checkでは長時間視聴（2時間以上が約6割）や夜更かし（23時以降が約5割）が依然として多い。特に2年生における4時間以上の長時間使用や深夜就寝が課題となっており家庭と連携した適切なメディア利用の指導を継続・強化していく。</li> </ul>
保護者・地域との連携他	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的な情報発信（学校ホームページ・学校通信等）</li> <li>東陽小・中学校学校運営協議会の推進</li> <li>まちづくり協議会との共同実施</li> </ul>
	成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校は、子どもが地域貢献につながる活動を行い、家庭や地域と連携しながら教育活動を推進していると思う。学校関係者→3.93</li> <li>○地域人材を授業等で積極的に活用し、地域とともにある学校づくりが進んでいる。教職員→3.91</li> <li>保健、図書、食育、進路、各学級、学校通信、及びホームページの情報発信は定期的に行うことができた。</li> <li>年4回開催された学校運営協議会は、学校と地域の連携を深化させる上で効果的な役割を果たしていた。関係者評価においては、すべての項目で肯定的な評価を得ることができた。特に、伝統芸能の継承やボランティア活動に関連する項目については、非常に高い評価となった。</li> <li>東陽町独自の「まちづくり協議会」と緊密な協力体制を構築し、学校・地域・保護者・子ども・行政の5者による強固な連携を実現できた。</li> </ul>
	課題と今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲職員は、生徒や保護者の相談に適切に対応していると思う。保護者→3.00</li> <li>地域貢献については高く評価される一方、今後は指導者の高齢化や後継者不足により、伝統文化学習の継承が困難になることが懸念される。そのため、持続可能な継承のあり方について検討するとともに、児童生徒数の減少に伴う班編制の見直しについても、併せて協議していく必要がある。</li> <li>地域連携を進める中で、学校行事の変更に関する連絡や意思疎通が不十分となり、保護者や地域の皆様にご迷惑とご不安をかけてしまった。今回の件を真摯に受け止め、今後は双方向のコミュニケーションを大切にしながら、皆様に信頼していただける学校運営に努めていきたい。</li> </ul>

※評価数値は4.0が満点

2 自己評価の公表について

公表時期：令和7年11月 及び 令和8年3月の2回

公表方法：学校通信および学校ホームページでの公開

\*「自己評価結果」及び「自己評価の公表」については資料を添付してください。

3 学校関係者評価について

実施状況		公表状況	
実施した	○	公表した	○
実施しなかった		公表しなかった	

\*○印を記入してください。

\*実施した場合及び公表した場合(予定も含む)は資料を添付してください。